

1920年ー
今からほんの100年前ー
当時
大学まで行くことができた者は
一学年のわずか1%にも満たなかったと言われる

大学とは100年前ー

本人の能力・努力のみならず

経済的に恵まれた者
何らかの支援を得られた者らが
なおかつ周囲の理解と後押しを得

ようやく行くことができた
憧れの場所であった

『分離派建築会』は中でも最も難関の
東京帝国大学建築学科の学生
～いわば恵まれた者たち～
によって起こされた建築運動で
あったのだがー

しかし!

『大正デモクラシー』と呼ばれる当時の
人権・平等が尊ばれた世相を反映してか

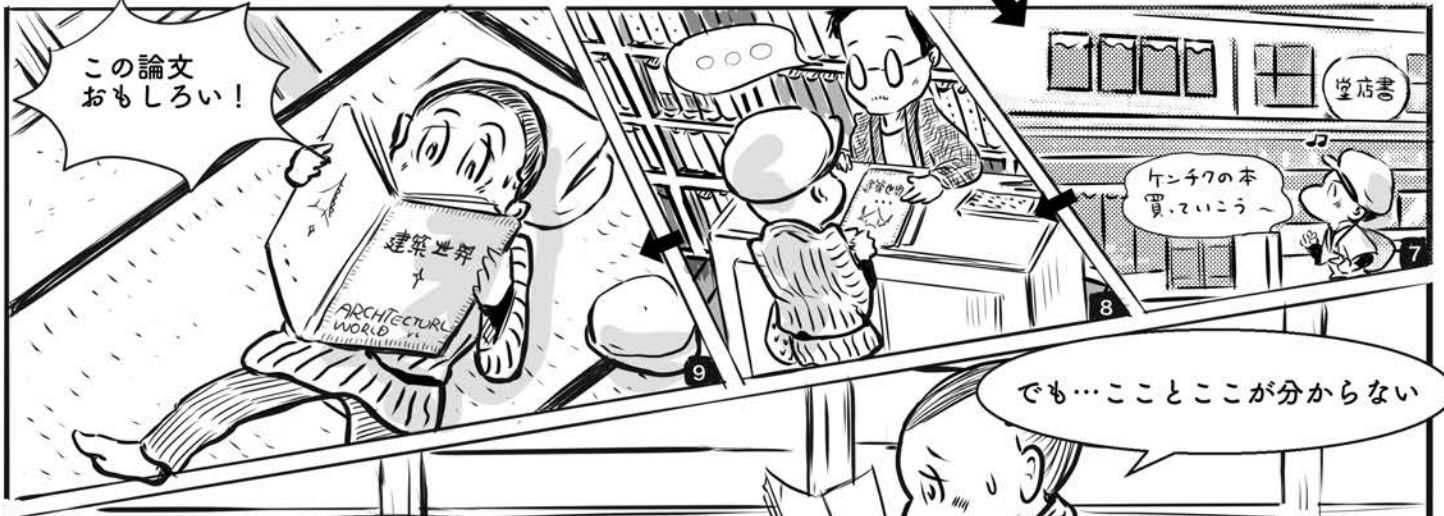
いわゆる帝大とは縁のなかった者でも
ここで才能を開花させた人物もいたのだったー

やまくち ぶんぞう
山口文象

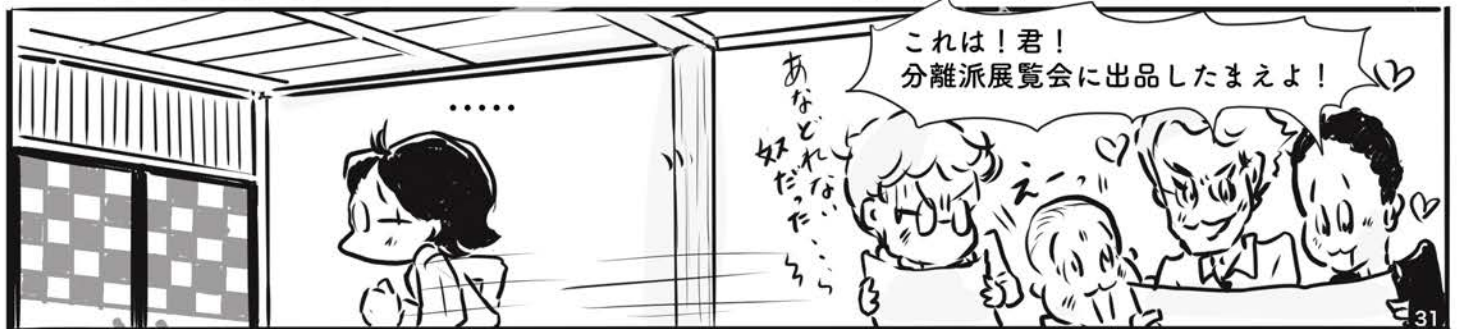
※当時は岡村蚊象を名乗る

馬鹿言うなっ
俺は
大学に行きたい!!

清水組の棟梁の息子として
浅草に生まれる
親に大学進学を反対され
高校卒業後清水組などの現場で働く











おっ
大内さん!
ご登場!

こんばんわ～
追加加入者ってことなら
僕も入れといて欲しいですね

おおうちしゅういちろう
大内秀一郎



そんな『いい人キャラ』大内秀一郎は
分離派には第5回展より出品

堀口さんと一緒に
ヨーロッパ行ったり…
分離派のご縁には
大変お世話になりました!

日本で初めてプラネタリウムを導入した
『大阪市立電気科学館』をのちに設計



大内は
高校の時から
品がいいよ

四高の先輩
後輩

やだなあ「さん」づけ!
辞めてください!
石本さんの方が先輩なのに～

いいや
君のような人格者は
「君(くん)」ではなく
「さん」でなくてはかん!

石本に
そこまで言わせる男は
大内くんくらいだな!

山田

END

All written by Y@Y子

※実際のエピソードをもとに構成しています